表4－1　知識観の変化

旧来の知識観	新しい知識観
・知識伝達 ・記憶中心 ・教師中心 ・排他的競争主義 ・スケジュール主義 ・事実中心	・共同研究と外的知識の構築 ・経験，対話，思考 ・学習者中心主義 ・協働的 ・機会をとらえる ・アイデア中心

にするからである。従来の知識観には社会を変革する目的は内蔵されていない。

それに対して，新しい知識観は，知識を一般人の立場から問題解決のための探究の中で利用するものととらえている点において，プラグマティックである。そこでは，知は専門家が一般人に一方的に与えるものではなく，知のあり方はあくまで社会や一般の個人の問題解決の探究の過程の中で，彼・彼女らが活用できるように組織され，彼・彼女らのフィードバックを受ける。専門家と一般人とは従来の上下関係ではなく，水平的関係であり，民主主義的でありリベラルである。新しい知識観において，学習の過程が重視されるのは，知が終わりのない前進であり，誰もが学習者であるとみなされるからである。学ぶのは事実だけではなく，従来の社会の価値観も検討に付され，社会の改良が目指される。個人を他の者よりも優位に立たせるために教育がなされるのではなく，共有できる知識を構築するために教育がなされる。

プラグマティズムに基づいた新しい知識観では，知識は，個体の中のみならず，環境中に外在的に構築されるものとしてとらえられる。理解とは，人間の内的な認知過程ばかりを指すのではなく，知的行動をサポートする外在的知識にアクセスし，その利用の仕方を知ることも含まれる。人間の知的活動は，本質的に，環境とのインタラクションによって成立している。私たちの知的活動は，他者とともに生き，他者の援助を受けて行われており，その産物は人と通じあうべく形成され，その生産の助けを借りて知的活動はさらに発展していくのである。